意見交換会報告書

おかざき未来“夢”プロジェクト　高校生と市議会議員の意見交換会
～愛知県立岡崎商業高等学校　編～

令和７年７月１８日（金）
岡崎市議会広報委員会

意見交換会報告書

「おかざき未来“夢”プロジェクト　高校生と市議会議員の意見交換会　～愛知県立岡崎商業高等学校　編～ 」

【目　次】

P2～　議会広報委員所感

P4～　高校生アンケート結果

P10　記録写真

【概　要】

1　開催日　令和７年７月18日　金曜日

2　時間　　14時から15時45分

3　場所　　市議会議場・委員会室

4　参加者　愛知県立岡崎商業高等学校　　19名

　　岡崎市議会(議会広報委員会)　９名

【次　第】

市議会議場

14：00～14：05	開会・挨拶	岡崎市議会 議長　簗瀬　　太 愛知県立岡崎商業高等学校 校長　浅井　和芳
14：05～14：10	市議会紹介	議会広報委員会 委員　本多　　勝
14：10～14：15	学校紹介	愛知県立岡崎商業高等学校

委員会室

14：20～15：10	意見交換会	
15：10～15：20	（意見とりまとめタイム）	

市議会議場

15：25～15：35	生徒発表	
15：35～15：38	閉会・挨拶	議会広報委員会 委員長　土谷　直樹
15：40～	集合写真撮影	

【テーマ・参加者一覧】

Ａ班：高校生の視点で考える、選挙投票率向上への具体案（第１委員会室）

市議会議員：三浦　康宏（みうら　やすひろ）、神谷　茂樹（かみや　しげき）

高校生６名

Ｂ班：岡崎に「住みたい理由」を 10 秒で伝える広告を作れ！（第２委員会室）

市議会議員：井町　圭孝（いまち　よしたか）、本多　勝（ほんだ　しょう）

高校生４名

Ｃ班：若者が集える場所の創出（第３委員会室）

市議会議員：杉浦　久直（すぎうら　ひさなお）、土谷　直樹（つちや　なおき）

高校生５名

Ｄ班：目指すべき公園像について（第４委員会室）

市議会議員：加藤　義幸（かとう　よしゆき）、瀬戸　清太郎（せと　せいたろう）

福田　澄代（ふくだ　すみよ）

高校生４名

議会広報委員所感①

今年度の商業高校の生徒は、事前の調査、研究がしっかりなされており、どこを切り口に深堀りするかを悩んだ。ただ、皆さんが積極的に意見を述べてくれたので、比較的スムーズな進行が出来たと思う。公園についてのテーマであったが、ほぼ議員の考えと似ているところが多かったが、一部、高校生らしい意見も出ていた。現在、南公園の全面改修を行っているが、供用開始後、不備な点、改めた方が良い点等あれば、積極的に提言していきたい。
全体発表では、皆さんしっかりと調査、研究、意見交換したことを発表してくれたので大変すばらしい出来であったと思う。最後に講評があれば、高校生にとっても、より意義が増していたであろう。時間が少し延びてしまったことが反省点である。

「岡崎に「住みたい理由」を10秒で伝える広告を作れ！」というテーマで、意見交換に参加した。事前に動画を制作してくれた丁寧な準備から、取り組みに対する前向きな姿勢が伝わってきた。最終的に、「どの世代にも青春がある　おかざき」というキャッチコピーが完成した。子どもから高齢者まで、それぞれの世代が楽しみや喜びを見つけられる本市ならではの、素敵な表現だと感じた。若い世代の柔軟な発想や視点は、まちづくりにも生かせる大切な資源である。こうした声を継続的に受け止める場づくりに、今後も力を入れていきたいと考える。

Ａ班６名は、まず、準備資料からして事前に時間を費やし勉強した跡が見受けられ、感心した。そして、その内容も課題を「時間・場所」、「知識」、「興味」の３つと分析し、それぞれに彼らなりの具体的な解決策を考え提示しており、以後の議論がスムーズに行えた。そして、その場でもこちらの話に熱心に耳を傾け、質問を投げかければ全員が率直な回答を返してくれ、結果として突出したアイデアが出た訳ではないが、高校生がより選挙や議会を身近に感じ、興味を持つ時間となったことは間違いない。特にお互いに「時間が足りない」と言い合い、「もっと話しづらいと思ってたけど、これならもっとこういう機会を学校で増やして欲しい」と言ってもらえたのは、嬉しかったし実現できたらと思う。

高校生の視点で考える選挙投票率向上への具体案について議論した。事前に高校生が作成した資料の内容に誠実に応えられるよう、根拠となる数字や事実を調査して臨んだが、その結果、伝えるべきことが多くなり過ぎてしまい、生徒が語る時間を奪ってしまった面もあったと思う。ディスカッションを通じて、「一般市民に何が伝わっていないか」、「今後何を伝えていくべきか」を把握することができ、議会広報委員会として非常に意義のある会となった。また、行政を民主的に進めるために必要な「選挙にかかるコスト」や、「１票の投票権が将来に与える影響」についても意見交換を行うことができた。投票の機会を増やすことよりも、政治の重要性や投票権の価値を啓発していくことが大切だという結論に至ったと思う。参議院選挙が近づく中、「給付と減税」ばかりが争点となる政治に対して不安を感じる若者の声が印象的であった。

高校生と「目指すべき公園像」について意見交換を行った。女子高校生４名と市議会議員３名が参加し、事前資料を基に若者の率直な意見を聞いた。現行のルールでは難しい点もあるが、公園を多くの人にとって魅力ある場とするには、利用者の声を把握することが重要である。公園は世代を問わず利用でき、地域のつながりにも生かせる場である。若者の声を市政に反映させるきっかけとしていきたいと思う。

大変前向きな取り組み姿勢であり、どの生徒も建設的な意見が多く、メンバーと同年代の理想にとらわれず、幼児から高齢者まで、他年代も考慮した意見が出されたのには大変感心した。グループワークでは、生徒の考え方を固着させないよう、本市の予算を考慮せず、理想の公園に求められる意見を数多く出してもらったが、中でも、アイスクリームや飲料の自動販売機の設置について意見があった。熱中症対策にも有効だが、老若男女問わず生水の摂取を敬遠される時代だからこそ自動販売機は公園に必要な設備であり、更には防災上の観点でも近隣退避場所に設定された公園は特に自動販売機の設置が有効だと気付いた。限られた予算の中で計画的に進めているトイレの洋式化は、全生徒からトイレの洋式化を望む声が聞こえた。やはり、年代と共に家庭での洋式化が普通となった昨今、公共の公園もトイレの洋式化はもはや普通であり、公園利用者の多くが和式トイレの利用経験が無いと想定される中、公園のトイレ更新は間違いなく必須であることが裏付けされた。進行は全体的にスムーズであり特に改善する点は無いが、グループワークの時間や生徒が行うまとめ時間が不十分だと感じた。出された意見の深掘りや発表で伝えたいことを話し合う時間を考慮した全体所要時間の検討をすべきである。

今回の意見交換会ではB班の「岡崎に「住みたい理由」を10秒で伝える広告を作れ！」のファシリテーターとして参加した。参加した生徒は、事前にPR動画を3本製作して提案してもらった。どれもよく考えて作ったことが伝わってくる内容だったが、更にブラッシュアップさせるために、様々な提案をしてもらうよう進行したつもりだったが、そもそも「住みたい」と「来たい」の考え方をはっきりと区分することなく、意見を集めてしまったため、反省している。
また、最後に動画以外にも住みたい理由を伝えるためにキャッチコピーを考えるよう課題を出したところ、10分足らずで「どの世代にも青春がある　おかざき」と素晴らしいキャッチコピーを考えてくれた。若い力、発想力に驚かされた。

今回の商業高校生との意見交換会は、とても有意義であった。特に私が担当した、若者が集える場所の創出をテーマとしたグループでは、事前に生徒がしっかり内容を理解し、考えてきてくれたおかげで、スムーズにそれぞれの意見を聞くことができた。運動して楽しめる施設として温水プールが欲しいという事前の意見と、その考えに至った要素、どうすれば集うことができるか、若者の移動手段の問題など、しっかり聞くことができた。今回聞くことができた内容を、しっかりと受け止めるとともに、今回参加してくれた生徒たちが、これからの市政、まちづくりの主役となってくれることを大いに期待したい。

今年のテーマは、まちづくりの本質に迫る４つの切り口だったが、どの議論にも高校生の熱意と工夫が詰まっていた。「若者が集える場所の創出」や「目指すべき公園像」などの身近なテーマでは、「自分ごと」として考える真剣なまなざしが印象的で、提案も多様かつ現実的であった。また、「選挙投票率向上」や「岡崎に住みたい理由の10秒広告」といった一見難しいテーマにも果敢に挑戦し、ユニークで実現性あるアイデアが次々に出された。「社会を変える力が自分たちにもある」と気付いた高校生たちの堂々たる姿に、頼もしさと可能性を強く感じた。こうした意見交換の場が、視野を広げ、まちの未来に関わるきっかけになることを、改めて実感した。

【参加者：岡崎商業高等学校　生徒１９名】
〇学年別参加者数　３年生　８名、２年生　１１名

〇アンケート期間　7/18　～　8/12
〇アンケート方法　グーグルフォームで各自電子入力

1、意見交換

Ｑ１.意見交換をした感想

（複数の分類が含まれる場合、それぞれの分類に1人ずつカウント。よって延べ人数）

分　類	人数(延べ)	主な回答（要約）
①議員や大人との交流・意見交換による学び	7人	・市議会議員と直接話すことで政治や選挙への関心が高まった・世代間で視点や発想が異なることを実感し、現実的な視点や新しい知識を得られ、政治が身近に感じられた。
②貴重な体験・機会としての評価	6人	・普段接することのない議員と意見交換できたのは貴重・こうした機会を増やしてほしい、将来の活動にも生かしたい。
③政治や地域課題への理解の深まり	5人	・岡崎市の現状や課題について理解が深まった・高校生の提案と大人の現実的視点（高齢者・子育て・予算管理など）を比較し学べた・調べたが不明な点を認識できた。
④自己の考えや意見発信の機会	5人	・自分の意見を発表することが楽しかった・他者の異なる意見や視点を聞くことで考えが広がった・政治について考えるきっかけになった。
⑤投票率向上に関する意識	2人	・若者の投票率を上げないと全体の投票率も上がらないと感じた。
⑥未記入・無回答	2人	・十分に発言できなかったが、この経験を将来に生かしたい。

●参加者の多くは「楽しく、貴重な体験だった」と受け止めており、議員との交流を通して政治への関心や新しい視点を得られたと感じている。議会に親しみを持ち、参加意識が高まったという声が多い一方で、「もう少し時間があれば良かった」「発言が上手く出来なかった」という意見もあり、こうした声を今後の運営や対話の工夫に繋げる必要があると言える。

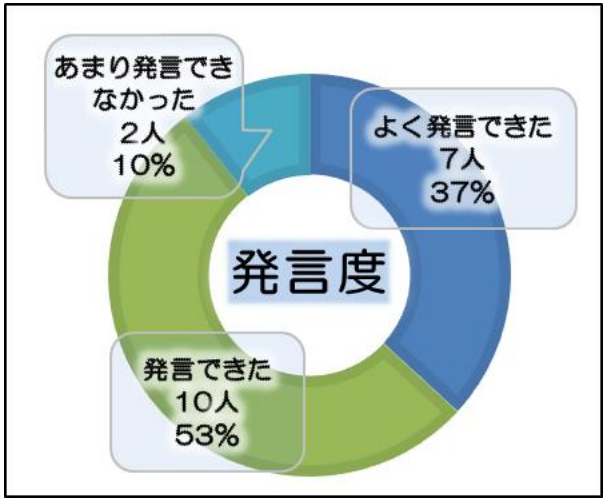
【参加者の感想（一部抜粋）】

- 「高校生の視点からは『安全で明るく、誰でも使いやすい公園』や『放課後に気軽に集まれるようなスペースがほしい』という意見が出ました。一方、市議会の方々からは『高齢者や小さな子ども連れにも配慮が必要』『予算や管理の視点も大切』という意見があり、現実的な視点も学ぶことができました。今後、自分たちの暮らすまちについてもっと関心を持てるきっかけになりました」
- 「議員の方が優しく話し合いをしてくださり、堅苦しいイメージがなくなり、もっと議会に興味を持ちました」
- 「岡崎市の現状を変えようとする意思が伝わりました。岡崎市をより良くするために頑張ってください」

Q２.自分の意見が発言できましたか？

回　答	実回答者数
よく発言できた	7人
発言できた	10人
あまり発言できなかった	2人

★実回答者 19人
未記入･無回答 無し

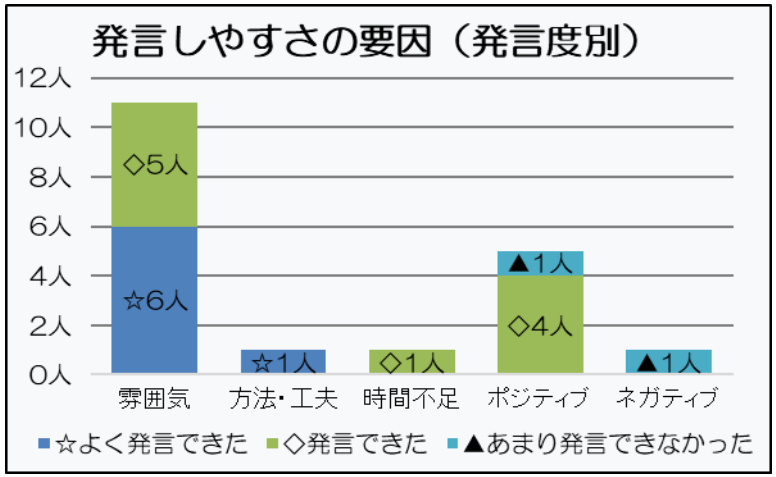


●**全体の約9割（89.4%）が「発言できた」または「よく発言できた」**と回答しており、参加者の多くが自分の意見を発表できたと感じている。また「よく発言できた」割合が約4割に達し、積極的な参加が見られた一方で、1割程度は「あまり発言できなかった」と回答しており、発言機会や雰囲気づくりの改善余地もある。

Q３.「発言できた」人数および「その理由」について

（複数の要素が含まれる場合、それぞれの分類に1人ずつカウント。延べ人数）

理由分類	人数	代表的な意見
雰囲気	11人	議員の方が率先して意見を伝え、相づちや拾い上げで雰囲気をつくってくれたので、発言しやすかった。
方法・工夫	1人	付箋を使った形で意見を出す進め方が良く、自然に発言できる雰囲気が生まれた。
時間不足	1人	まとめの時間が十分に取れず、発言の整理が不十分となり、もう少し時間が必要だと感じた。
ポジティブ	5人	委員が質問を投げかけたり意見を丁寧に拾ってくれたことで、普通の会話のように発言できた。
ネガティブ	1人	話の切れ間に発言するタイミングを掴むのが難しく、言いたいことを途中で逃してしまった。



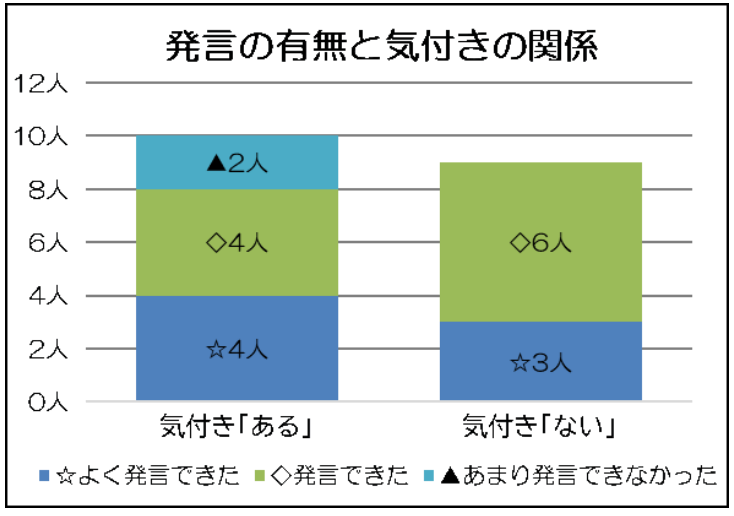
雰囲気づくりは成果、次回は時間と公平さ

●議員は、限られた時間の中で班員の発言機会を均等にする等の公平さに一部配慮が出来なかった点を反省しつつ、雰囲気づくりで発言が広がったことを評価し、次年度は時間をより有効に使い公平な進行に心がけることを意識することが肝要。

Q4.新たな気付きや考え方などに変化はありましたか？

★実回答者 １９人、未記入･無回答無し

質問Q（実回答者数１９名）		Q4新たな気付き考え方の変化	
		「ある」	「ない」
Q３自分の意見の発言	よく発言できた	4人	3人
	発言できた	4人	6人
	あまり発言できなかった	2人	0人



●全体の約6割が『気付き有り』と回答しており、特に『発言できた』『よく発言できた』層で多く見られた。ただし、発言と気付きの相関性が結び難く、議論の深まりや時間配分等、意見交換会の運営について改善の余地もある。

Q5.「気付きや変化の理由」について

分　類	主な回答（要約）
政治や岡崎市の状況、議員の取り組みを理解（政治・市の現状）	・政治や今の岡崎市の状況について発見があった ・政治についての知識、現状について学んだ ・市議会議員さん達が何を考えているか分かった ・政治や選挙の現実が分かった
自分の意見の大切さや発信の必要性を実感（市民としての意識高揚）	・意見を言えば実現に近づくと感じた ・一市民の一意見でも大切だと知った ・議員が真剣に向き合っていると感じ、自分も発信が必要だと思った
他者の立場や新しい場のあり方への配慮（多様な視点）	・他の立場の人の視点で考える大切さを学んだ ・バーチャル空間なら不自由な人ともつながれると気付いた
理想だけでなく、制約や優先順位の気づき（現実的な課題）	・理想だけではなく金銭面も考える必要があると学んだ ・限られた時間で意見を整理・優先する力がついた

●参加者は、政治や市の現状を知り、意見を発信することの大切さを実感でき、議員は若い世代の率直な声から新たな気付きを得ることができた。

Q6.「意見交換会全体についての御意見」について

★実回答者 9人、未記入･無回答 10人

分　類	実回答者数	主な回答（要約）
①楽しい雰囲気	3人	緊張もあったが、和やかな雰囲気で意見交換でき、楽しかった。
②新しい体験	2人	議員と直接意見交換する初体験が新鮮で価値があった。
③深い学び	1人	普段考えないテーマを多世代の視点から学べ、自分の考えも深まった。
④今後への期待	2人	今回のような交流の機会をもっと増やし、学校や地域に広げたい。
⑤継続開催希望	1人	継続的・長期的にできればさらに面白くなると感じた。

●多くの参加者が「楽しかった」「初めての体験で良かった」と肯定的に受け止めており、一部からは「学びの深まり」や「今後への期待・長期的な取り組み」も示された。

一方で未記入や無回答者に関しては、特に不満も無いため敢えて未記入なのか、あるいは、自由記述への負担感が未記入に影響したと想定する。

2、岡崎市議会の情報発信

Q7.「岡崎市議会に関して閲覧したことのある公的情報」について

情報源分類	回答者数（複数回答）
①市議会だより（紙）	10人
②公式HP全般	9人
③議会映像・会議録検索（公式HP内）	2人
④Youtube・MICS中継	2人
⑤新聞記事	1人

（参考）情報源の比較

分類	配布コスト（行政側）	閲覧コスト（市民側）	備　考
①	高	低（誰でも読める）	高齢者やネット未使用者でも利用可
②	低（公開作業のみ）	中（検索・操作が必要）	PC・スマホ操作層に有効
③	低	高（能動的に探す必要）	利用者は限定的
④	低	中（通信環境必要）	若年層向き、拡散性高い
⑤	低（取材対応は必要）	中（購読者に依存）	世代による利用度に差

●「市議会だより（紙）」と「公式HP」が圧倒的に多く、高校生にとって主要な情報源ということが窺える。一方で、映像配信や会議録検索等のデジタル系は回答が少なく、コスト･効率は良いが利用層が限定傾向という課題も浮かび上がった。

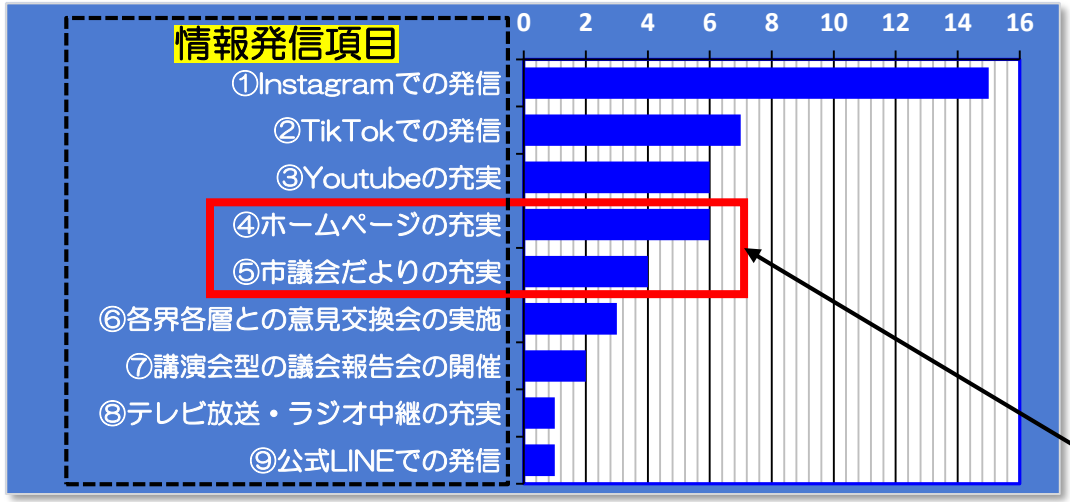
Q8「廃止したほうが良い情報発信」

★実回答者 ２人、未記入･無回答　１７人

『岡崎市議会ホームページの議会映像』と『新聞記事』の**2件のみ**が挙げられているが、多くは無回答または未記入であり、基本的には現状の情報発信を廃止する必要性はあまり認識されていないと考えられる。

Q９.「岡崎市議会が議会全体として取り組むべき情報発信」について

★１人３つまで複数選択



項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
件数	15	7	6	6	4	3	2	1	1

●InstagramやTikTokといったSNSでの発信が圧倒的に多く、次いで同じSNSのYouTubeホームページの充実が挙げられた。また、単に広報に留まらず「意見交換会」「講演会型報告会」など、対面で行う市民参加型の情報発信に関心を寄せる回答者も一定数見られた。なお、情報発信ツール（SNS)の選定や動画等の「見せ方」は今後検討すべき課題である。

Q7.「岡崎市議会に関して閲覧したことのある公的情報」

●Q7で上位の市議会だよりや公式HPはSNSには及ばないことから、現状程度で程良いことが窺えた。

情報源分類	回答者数（複数回答）
①市議会だより（紙）	10人
②公式HP全般	9人
③議会映像・会議録検索（公式HP内）	2人
④Youtube・MICS中継	2人
⑤新聞記事	1人

Q10.「その他、岡崎市議会の情報発信全体の意見」について

分　類	内　容	実回答者数
特に意見なし	「なし」「特になし」「空白」	18人
改善意見あり	「文が多すぎて分かりづらい」	1人

●多くの回答者は「特に意見なし」であるが、一部は「文章量が多く分かりにくい」と指摘があり、情報発信における簡潔さや分かりやすさの改善が求められている。

アンケート結果のまとめ

●多くの参加者が安心して意見を言える雰囲気が作られ、6割を占める「新たな気付きがあった」と回答した参加者は、政治や市の現状といった気付きや、他人の考えの傾聴で視野が広がることに気付いた一方で、「もっと深い話し合いがしたかった」との意見もあり、進行や時間配分の工夫も必要。

●議会からの情報発信ツールはSNSの活用を望む意見が多い一方で、既存の発信ツールは閲覧はするが「文字が多く分かりづらい」という意見もあり、発信者側での改善も検討する必要がある。

●議員が話しやすい雰囲気を醸し出してくれたとの評価の一方で、さらに発言を引き出す工夫も必要。

●参加者世代が、地域や議会をより身近に感じ関心を深めていただくには、意見交換会などの対面機会を充足させるとともに、ネット環境やアプリ（ツール）を生かして常に意見を送受信できる体制を整えつつ、世代に即した情報発信内容や発信頻度の検討の必要がある。

付録：質問項目一覧

A. 意見交換会に関する質問

Q1. テーマ別の意見交換の感想を聞かせてください
Q2. 自分の意見が発言できましたか？
Q3. その理由を教えてください
（例：話しやすい雰囲気だった、時間が短かった、等）
Q4. 参加したことで新たな気づきや考え方などに変化はありましたか？
Q5. 「ある」と答えた方に、どんなことか教えてください
Q6. 本日の意見交換会全体について、御意見があれば教えてください
（自由記述）

B. 情報発信に関する質問

Q7. 岡崎市議会に関して閲覧したことのある公的情報があれば☑してください
Q8. 廃止したほうが良い情報発信があれば☑してください
Q9. 岡崎市議会が議会全体として取り組むべき情報発信に☑してください（3つまで）
Q10. そのほか、岡崎市議会の情報発信全体で御意見があれば教えてください

（全10問、自由記載＋語句選択）

【参考】記録写真

○挨拶　岡崎市議会　簗瀬議長

○挨拶　愛知県立岡崎商業高等学校　浅井校長

○市議会紹介　議会広報委員会
（本多委員）

○学校紹介　愛知県立岡崎商業高等学校

○意見交換会の様子（Ａ班）

○意見交換会の様子（Ｂ班）

○意見交換会の様子（Ｃ班）

○意見交換会の様子（Ｄ班）

○生徒発表（Ａ班）

○生徒発表（Ｂ班）

○生徒発表（Ｃ班）

○生徒発表（Ｄ班）

○閉会挨拶（議会広報委員会　土谷委員長）

○議場の様子

○集合写真①

○集合写真②